

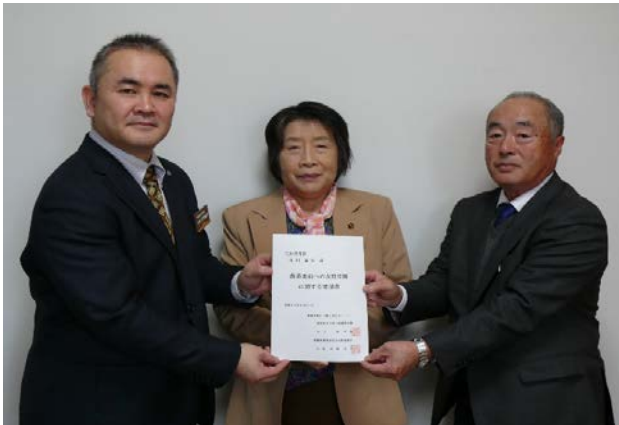
秋田県農業委員会女性協議会だより (第4号)

発行日 平成31年3月18日
秋田県農業委員会女性協議会

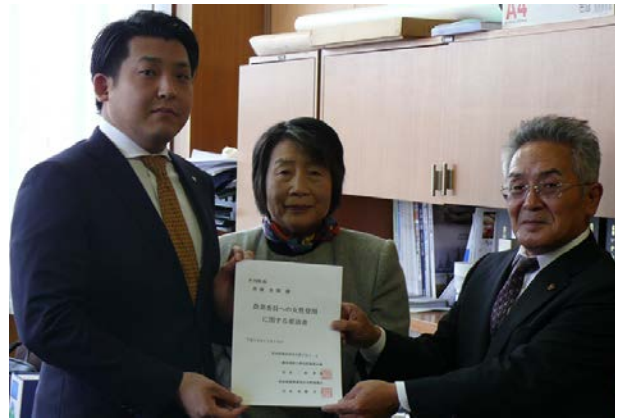
1. 農業委員への女性登用に向けた要請活動を実施

平成31年4月から、新体制後の任期2期目を迎えるにかほ市と井川町にて、(一社)秋田県農業会議とともに、首長に対して農業委員への女性登用に向けた要請活動を行いました。

首長からは「農業委員会と情報を共有し、女性候補者の人柄や能力を見ながら積極的に任命までの手続きを行っていききたい」等の、女性登用に対して前向きな言葉をいただきました。



にかほ市 市川市長へ要請 (12月3日)



井川町 齋藤町長へ要請 (12月10日)

結果、にかほ市3人、井川町2人がそれぞれ議会の同意を得ました。

2. 平成30年度女性農業委員登用促進研修会の開催

平成31年1月9日(水)10日(木)東京都「主婦会館プラザエフ」にて、平成30年度女性農業委員登用促進研修会が開催されました。

農林水産省経営局農地政策課長 押切 光弘氏より、「農地利用の最適化に向けた農業委員会の取り組みについて」と題し、農地中間管理事業の5年後見直しについて、農業委員・農地利用最適化推進委員による地域の話し合いへの出席等について講演が行われました。出席者からは、「農業経営については、家庭の中ですら意見が食い違う。農地の集積・集約化についても、他人の意見をまとめるということは本当に難しいと感じている」等の感想が挙がりました。

また、「女性農業委員・推進委員を増やすアイデアを出そう」というテーマのもとにグループ討議が行われました。



グループ討議の様子

出席者を5名1グループに分け、「議長は置かない。話し合いは時間厳守。些細な思いつきでも意見にする。他の意見を否定しない。意見は付箋に書いて張る。似た意見の付箋をグループ分けする。1枚の紙に書いてまとめる。」等のルールのもと活発な話し合いが行われ、出席者からは、「手を挙げて発言する形式の会議と比べ、意見が出やすく良い。皆で話して意見をまとめる全員参加型の会議という感じで新鮮」等の感想が挙がりました。

3. 平成30年度全国農業委員会女性協議会総会（第9回）の開催

平成31年1月10日（木）東京都「主婦会館プラザエフ」にて、平成30年度全国農業委員会女性協議会総会が開催されました。5議案が上程され、全議案が原案どおり承認されました。

なお、第4号議案で会費の賦課に関する件が上程され、平成31年度より全国農業委員会女性協議会に対する会費の賦課が行われることに決定したほか、第5号議案で新理事・監事が次のとおり選任されました。

理事	北海道・東北	安藤 直美（いわてポラーノの会） 伊藤 恵子（みやぎアグリレディス21）
	関東	興野 礼子（とちぎ女性農業委員の会） 横田 友（埼玉県女性農業委員協議会） ※全国農業委員会女性協議会会長
	北信越	笠原 尚美（にいがた女性農業委員の会） ※全国農業委員会女性協議会副会長 古沢 明子（長野県農業委員会女性協議会）
	東海・近畿	高田 禮子（ぎふ農業委員会女性ネットワーク） 池田 喜久子（湖国女性農業・推進委員協議会）
	中国・四国	道下 和子（農業委員会ウーマンネット広島） ※全国農業委員会女性協議会副会長 田村 照栄（かがわ農業委員会女子の会）
	九州	西村 ふじ子（長崎農業委員会女性ネットワーク） 瀬長 澄子（沖縄県農業委員会女性協議会）
監事	東日本	青木 朱美（ぐんま農業委員会女性ネットワーク）
	西日本	吉武 順子（福岡県農業委員会女性ネットワーク）

4. 平成30年度（第15回）女性の農業委員会活動推進シンポジウムの開催

平成31年3月6日（水）東京都「砂防会館」にて「未来につなげよう！地域の農業と農地」のテーマのもと、平成30年度女性の農業委員会活動推進シンポジウムが開催され、本県からは22名が出席しました。

講演に先立ち、（一社）全国農業会議所 会長 二田孝治氏より、「本シンポジウムを通じて研鑽を積み、今後は地域の合意形成の場となる話し合い活動への積極的な参画をお願いしたい。特に、女性が持つ農業への視点や柔らかな雰囲気を活かし、話し合いの活性化に一役買っていただきたい」と挨拶が行われました。

次に、（一社）ファシリテーター普及協会 代表 釘山健一氏による「農業の未来は明るいぞ！～これからの農業は女性の笑顔と楽しい対



挨拶を行う二田会長

話が変わる～」と題した講演が行われ、「日本では挙手して発言する形式の会議が主流。参加者の合意形成を図るには、机を囲んで笑顔で対話しながら、当人たちが書いてまとめていく、全員参加型の対話式会議が適している。最大のメリットは、当人たちが意見を出し、意思決定できる点。会議（根拠に基づいた発言を行う場）から、対話（思うことを話す場）へと考え方を変えてみることも大切」という事について時折ユーモアを交えながら話があり、出席者たちは笑顔で聴講していました。



秋田県からの出席者の様子

5. 女性農業委員・女性農地利用最適化推進委員のペンリレー

私のつぶやき

～ 執者 三種町農業委員会 農業委員 田村 公恵 さん ～



結婚後、歯科衛生士として再スタートしてから二十八年になります。その間、医療、福祉、生涯学習などの経験はさせて頂きましたが、今までとは全く関わりがなかった農業委員会という世界に昨年入ることになりました。

マスコミ等の情報で知る少子化、高齢化社会、自然災害等々で、農業を取り巻く情勢が大変だという事に関心はありましたが、農業委員会で挙手をする立場になろうとは、その前までは思ってもいませんでした。

我が家は、いかほどかの田畑はありますが、主人の赴任先の関係などもあり、営農耕作者の方に、そのほとんどを作ってもらっています。家の裏の畑で家庭菜園のまねごとをしている私が、農業委員の皆さんと初めて農地パトロールに行くことになったわけですが、県道近くの基盤整備された水田でもいろいろな条件で放棄地になっていたり、農地に再生できない程の木々が生い茂っていたりと驚かされるばかりでした。また、農業者年金の加入推進のため、伺ったことのないお宅に伺うことになった時は、何度か躊躇してしまいましたが、不安に思う時はいつも事務局、先輩委員の方々からの的確なアドバイスをいただけます。おかげで無事一年間を終えることができ、感謝しています。

農業の外からの視点の意見等を求められても、まだまだ言える程でもありませんが、農地利用最適化推進など、知りたいことはたくさんあります。今後もこの仕事を頑張りたいと思っています。6月の秋田県農業委員会女性協議会総会の場で、県内の女性農業委員のみなさんと交流できることを楽しみにしています。



～ 執者 三種町農業委員会 農業委員 野村 良子 さん ～



女性農業委員が不在だった三種町、能代市にて、女性農業委員が昨年7月に誕生したことにより、全県で足並みが揃いました。私は三種町の農業委員になり半年余り。農業委員の法律的なものはよくわかりませんでしたが、仕事の内容は少し理解していました。県内の先輩農業委員に比べると、車のペーパードライバーのようなものです。多くの研修の機会で資質向上に努めていきたいと思います。

人口減少、高齢化の急速化が多方面に影響を与えています。農業もその一例です。

稲作専業農家である我が家は、この先夫婦でいつまで農業を続けられるかわかりません。規模拡大や集約化を進めようとしても、耕作条件不利な中山間の農地では、耕作放棄地が一年ごとに増えてきています。

平成30年12月24日付の地元新聞記事によると、能代市二ツ井地区で計画されている県営圃場整備事業が、都市計画で整備しようと所有者の同意を集めたが、町中に散在する40haが都市計画の用途地域に含まれているため、整備が出来ない状況になっているとの内容を目にしました。農家や関係団体が整備しなければ、近い将来、耕作放棄地になる可能性は高いです。三種町内では農業振興区域ではない農地のため、基盤整備を断念した農家もあります。人口減少が進み空き家が増え、住宅建設が望めないような状況下で農地はどうあるべきか、関心の高い課題であると思います。幸い、三種町では農業委員と三種町農業公社が連携し先駆的集積を進め、国の基準70%に対し、80%の集積率、遊休農地率は全国3%に対し、0.57%と大きく下回っています。農業委員は、必要最低限の2人体制で農地利用最適化業務を行い、地域にふさわしい担い手を育てながら中山間地の最適化を進めています。地域の声に耳を傾け、農業委員組織の一員として誇りを持ち、自分の経営に考え方を活かしつつ、微力ながら頑張りたいと思います。



～ 執者 能代市農業委員会 農業委員 佐々木 博子さん ～



私は今年の7月に、農業委員の職を拝命しました。農業委員の仕事に携わってからは、普段何気なく通る場所の荒田、荒地に目が止まる事が多く、後継者不足のために「昭和の農業」の風景が失われていくことを実感すると共に淋しさを感じております。

農業に従事する者は誰もが出来秋に胸をワクワクさせ、米一粒に来年の五穀豊穡を願う感謝の気持ちを持ちますが、その反面、「米の自由化」の様な国の方針に翻弄され、改めて農業経営の行く末への不安を感じております。

このような現状に対し、私たち農業委員・農地利用最適化推進委員はその任務として、担い手の確保、新規就農者の育成・支援に力を入れ、農地の有効利用及び農地利用の最適化を促進し、農地が荒地とならないための地域の相談役として大切な役割担っていると自負しております。

秋田県農業委員会女性協議会の皆様と一日でも早くお仲間になり、それぞれが持つ課題に対して情報提供の一助ができればと考えております。よろしく願いいたします。

編集・発行：秋田県農業委員会女性協議会（事務局：一般社団法人秋田県農業会議）

秋田市山王4丁目1-2 秋田地方総合庁舎内 TEL:018-823-2785 FAX:018-823-7361